

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 峯田周幸^{ひろゆき} 浜松医科大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医

耳鼻咽喉科の後期研修医のための教育プログラムは、日本耳鼻咽喉科学会の定めるカリキュラム内容を4年間にわたり学会認定の教育施設で行うものです。従来は各施設単独に、あるいは連携してプログラムが作られ、それぞれの施設の責任で実施されたことにより、一定以上の資質を備えた耳鼻科専門医を養成することができていました。しかし、平成16年度から始まった初期臨床研修制度が浸透してゆくにつれて、必修科目ではない診療科の一つである耳鼻咽喉科に後期研修医の応募がないという事態が発生してきました。この状態は全国にひろがっており、平成24年度に後期研修医として耳鼻咽喉科を選択した人は約180名です。応募のない県が8県、一人だけの県が12県ありました。研修制度前には毎年250—300名の新しい耳鼻咽喉科医が誕生していましたから、3分の2に減りました。静岡県は6名の応募があり、現在県内の病院で研修しています。静岡県は人口も面積も大きく、県内に耳鼻咽喉科医を充足させるには、まだまだ医者が足りません。今まで県内の耳鼻咽喉科医療は浜松医科大学および関東・中部・関西の伝統大学からの派遣人事の融合により、これまで上手く機能してきましたが、絶対数の不足と耳鼻咽喉科医の活躍する領域が広がり、悲鳴があがる地域も出てきました。



そこで県内の5基幹病院が中心となって、魅力があり、かつ内容を確実に実施できるプログラムをつくりました。このプログラムを終了すれば、確実に耳鼻咽喉科専門医として活躍できる臨床力を身につけることができます。もちろん安心して研修できるために、経済的なサポートも十分組み入れられています。君たちがトップクラスの耳鼻咽喉科専門医を志向するなら、この研修プログラムに是非参加されることを望んでやみません。

2 プログラムの目的

この静岡県版プログラムは初期臨床研修を終えた医師を対象にしたもので、その目的は

- (1) 有能な耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医を養成すること、
- (2) 県内病院での活躍の場を優先的に提供し、静岡県民が安心して高度な耳鼻咽喉科医療を県内のどこでも受けられるようにすること、
- (3) 静岡県以外でも、推薦状により国内の大学病院や一般病院での活躍の場を確保すること、
である。(有能な=オールラウンドに全国区で通用する能力を有する、の意)

3 プログラムの特徴

プログラム期間は4年間である。研修基幹5病院中希望する4病院を1年ずつローテーションし、最後の1年間を基幹5病院および選択3病院を含む県内の病院で研修をする。

4 プログラムの管理

本プログラムの管理は、日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会専修医研修管理委員会(ホームページ <http://www.shizuoka-jibika.jp>)が行うが、プログラムへの登録申込受付、および終了手続き等の窓口業務はふじのくに地域医療支援センター(静岡県健康福祉部地域医療課)が行う。

5 研修指定病院の選定条件

- ① 指導医としての日本耳鼻咽喉科学会認定専門医：常勤で2人以上の勤務
- ② 耳鼻咽喉科常勤医師：4人以上の勤務
- ③ 年間手術件数：400件以上の手術症例
- ④ 学会活動：日本耳鼻咽喉科学会総会、静岡県地方部会、日耳鼻所属専門学会等への積極的な学会発表
- ⑤ 掲載論文数：専門誌への論文投稿が年間2編以上

6 プログラム責任者と研修の特徴

(1) 基幹5病院(専門医)

浜松医科大学病院 主：^{ひろゆき}峯田周幸 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授(プログラム責任者)、
副：水田邦博 耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授

当教室が注力している分野の一つは頭頸部外科学で、良性疾患はもとより、悪性腫瘍では頭蓋底腫瘍切除や遊離皮弁による再建手術から機能温存を目指す光線力学的療法まで幅広い治療を行っています。また、耳科学では、鼓室形成術、人工内耳などを行っています。基礎的研究や海外留学の実績もあり、学位取得の指導も行っています。



静岡県立総合病院 高木明 副院長 兼 耳鼻咽喉科部長

外来は原則紹介制として専ら手術、高度な治療・検査などに力を注ぎ、病診連携の機能分担を心がけています。頭頸部外科手術全般の他に人工内耳を含む聴力改善手術では全国有数の施設となっています。

研修医時代に学んだ臨床への姿勢は医師としての一生を方向付けます。県下のそれぞれの分野での第一級の医師のもとで学習するという事は単に手術の技量を学ぶことのみならず、自分がどういう医師を目指すのか、の確認作業でもあります。是非、静岡プログラムで医師としての自分探しをしてみてください。



静岡赤十字病院 ^{なめき}行木英生 名誉院長

豊富な症例を基に、日本のトップクラスの手術の上手な耳鼻咽喉科・頭頸部外科医になるための手術手技の習得を目指す。手術手技を発展させる臨床解剖と生体機能の勉強を毎週のカンファレンスで身につけます。

オールラウンドに全国区で通用する能力を身に付けた有能な耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医を養成する静岡県全県下型プログラムを通じて、当院では豊富な症例を基に手術の上手な専門医になるための手術手技を習得することができます。手術という診療行為から患者を全人的に扱う医療技術と、医療人としての素養を身につけて下さい。



聖隷浜松病院 袴田桂 耳鼻咽喉科部長

若手医師の働きやすさに配慮しています。検査、画像診断、麻酔科のフットワークは抜群で機動性に富んでいます。2010年4月には頭頸部・眼窩顎顔面治療センターを開設し、診療の質の一層の向上を図っています。

外科系の医師が上達する秘訣は一流から多くを学ぶことに尽きます。書物でEBMを学んでも知識だけではどうにもならない事態に必ず遭遇します。若い時期に一流の仕事ぶりをたくさん見る経験が将来のエキスパートの道へつながります。本プログラムは全国的にも類のない“垂涎の的”的内容です。門を叩け、さらば開かれん。



静岡県立静岡がんセンター 鬼塚哲郎 頭頸科部長

年間、300件近い全身麻酔による頭頸部癌の手術をはじめ、内科や放射線治療科と協力して、様々な頭頸部癌治療を行っています。若い先生方の、頭頸部癌に関する専門的知識と技術習得を支援する専門病院です。

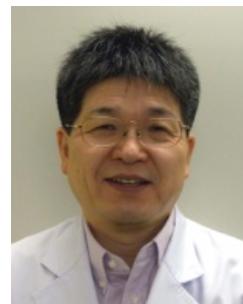
当院は2002年に新たな病院として開院し、静岡県が地理的に東西の交流地点にあることにより、人や情報の流れの中で年々進化を遂げてきました。頭頸部癌治療は会話、食事、整容面など生活の質に関わりの深い領域であるため、やりがいのある仕事です。全国有数の癌治療の実力をもつ当院での研修は、若い先生方の大きな財産となるでしょう。



(2) 選択3病院（専門医）

静岡済生会総合病院 武林悟 副院長 兼 耳鼻咽喉科部長

当院では、一般的な手術については、後期研修医が術者となり積極的に手術してもらいます。また、高気圧酸素治療装置による突発性難聴の治療や、静岡県花粉症調査委員会事務局があり、アレルギー性鼻炎の疫学から治療までを学ぶことができます。



沼津市立病院 佐々木豊 耳鼻咽喉科部長

当院は、後期研修に十分な施設と人員が備わっていて、中耳手術、内視鏡副鼻腔手術や甲状腺耳下腺などの頸部外科症例が多く、様々な知識や技量を身につけることができます。

また、富士山の麓、伊豆の玄関口、沼津港。景色が良く、おいしい物も沢山あります。



聖隷三方原病院 浜田登 耳鼻咽喉科部長

基幹病院はいずれも豊富な症例数と経験豊かな指導医がそろっており、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を目指し、専門知識や手術手技を習得するためには非常に適した施設といえます。選択病院である当院でも耳鼻咽喉科疾患全般を広く学ぶことができ、手術症例では術者あるいは手術助手を担当し、積極的に診療に携わることができます。



(3) 候補病院

磐田市立総合病院（林理佐子 耳鼻咽喉科長 大久保亜希 医長）

外来では、急性中耳炎、急性扁桃炎、副鼻腔炎などの炎症疾患や良性腫瘍、悪性腫瘍の診断など、耳鼻咽喉科に関する疾患は一通り対応します。ただし耳外来以外の専門外来はやっていません。入院は手術症例、急性炎症、突発性難聴、放射線治療を行う癌症例、癌ターミナルなどに対応しています。手術は皮弁再建を必要とする手術、喉頭全摘、頸部郭清など、当院での対応困難な手術症例は浜松医大、聖隷浜松病院などに紹介します。それら以外の扁桃摘出、鼻内内視鏡手術、唾液腺良性腫瘍摘出などは当院で対応します。



中東遠総合医療センター（臼井広明 耳鼻咽喉科部長 診療科長）

当院耳鼻咽喉科は地域医療に力を入れており、近隣開業医からの患者様を積極的に受け入れ、診療を行っております。炎症性疾患（咽喉頭炎、副鼻腔炎、中耳炎等）、アレルギー性疾患（性鼻炎等）から頸部腫瘍（咽喉頭腫瘍、唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍等）まで幅広い治療を行っており、さまざまな耳鼻咽喉科疾患を経験できると思われます。当院での研修を歓迎します。



浜松医療センター（荒井真木 耳鼻咽喉科長）

外来は炎症性疾患やめまい、難聴などの急性疾患をはじめ、術後や頭頸部腫瘍で管理を要する症例を中心に1日およそ50名の診療を行います。病棟は半数が術後管理、半数が入院加療を要する急性疾患です。多くの症例を経験する事ができるため、効率よくかつより高い診断能力を身につける事ができます。

手術は年間約300件で多くが全身麻酔下での手術となり、周術期管理を行う事が必須となります。専門医習得に不可欠な扁桃手術、頸部腫瘍手術、喉頭微細手術が半数を占めますが、その他、特に鼻副鼻腔手術は内視鏡下での手術を安全で低侵襲でありながら、よりよい形態となるような手術を行っています。



藤枝市立総合病院（行木一郎太 耳鼻咽喉科長）

当院は新しく救急センターが稼働し、また放射線治療機器も新しくなりました。そのため他科と連携して治療にあたるが多くなりますが、形成外科・眼科・放射線科・口腔外科が充実しており、耳鼻咽喉科疾患の境界領域を含む幅広い疾患の治療に携わることができます。

一般的な耳鼻咽喉科疾患も一通り経験できます。耳鼻咽喉科は外科系なので、手術手技の習得はもちろん、術後管理、退院後のフォローアップもしっかり行えるようサポートします。手術症例もまんべんなくありますが、多い手術は扁桃摘出や鼻中隔矯正術、ESS、ラリンゴマイクロ手術なので、術者としての経験を増やす場を提供できます。



今回指定された研修病院は上記基幹5病院、選択3病院、候補病院4病院であるが、選定条件を満たす病院は今後候補病院として登録される。

7 研修期間と研修内容

(1) 研修期間

- ① プログラムにおける研修・勤務期間は4年間(48か月)
- ② 各研修指定病院への派遣期間は基本的に1年間

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	A 病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	B 病院											

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	C 病院											

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	D 病院											

A～C 病院：基幹5病院中希望する3病院。

D 病院：基幹5病院および選択3病院を含む静岡県内の病院。

(2) 研修内容

- ・ 各研修病院においては、それぞれの研修病院が所属する日耳鼻専門医研修プログラム体系に則って研修が行われる。

GI0(一般目標)：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および医療人としての基本的姿勢を身につける。このために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できる知識、技能、診療態度および臨床問題解決能力の習得と人間性の向上に努める。

SBOs(行動目標)：

- ① 研修指定基幹5病院における研修内容は共通分野と特定分野とからなる
- ② 共通分野は、外来診療、病棟勤務、手術の基本手技、医療連携、診断書記載等の書類作成業務、等を含む
- ③ 特定分野は、中耳および内耳の手術、頭頸部外科手術手技、手術を中心とする癌治療、耳鼻咽喉科のリハビリテーション(聴覚、音声言語、嚥下、術後)、短期留学、等を含む

- ④ 研修内容の到達目標や手術症例数、指導医および自己評価等の一覧表は各研修病院での研修内容の調整に利用される
- ⑤ 本プログラムにおける研修到達目標
- ・ 下記の目標につき専門医としてふさわしいレベルが求められる。
 - ・ 基本姿勢・態度の項目に関しては、4年間すべての研修病院における到達目標とする。
 - ・ それ以外の耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部腫瘍の各項目に関しては、4年間の研修病院のいずれかにおいて到達できるよう、各年度の研修病院を決定する前に当該病院の指導医に相談すること。

基本姿勢・態度	
1	患者、家族のニーズを把握できる。
2	インフォームドコンセントが行える。
3	守秘義務を理解し、遂行できる。
4	他科と適切に連携ができる。
5	他の医療従事者と適切な関係を構築できる。
6	後進の指導ができる。
7	科学的根拠となる情報を収集し、それを適応できる。
8	研究や学会活動を行う。
9	生涯学習の姿勢を身につける。
10	医療事故防止および事故への対応を理解する。
11	インシデントリポートを理解し、記載できる。
12	症例提示と討論ができる。
13	学術集會に積極的に参加する。
14	保険医療法規・制度を理解する。
15	医療保険・公費負担医療を理解する。
16	医の倫理・生命倫理について理解し、行動する。
17	医薬品などによる健康被害の防止について理解する。
18	医療連携の重要性とその制度を理解する。
耳	
19	側頭骨の解剖を理解する。
20	聴覚路、前庭系伝導路、顔面神経の走行を理解する。
21	外耳・中耳・内耳の機能について理解する。
22	中耳炎の病態を理解する。
23	難聴の病態を理解する。
24	めまい・平衡障害の病態を理解する。
25	顔面神経麻痺の病態を理解する。
26	外耳・鼓膜の所見を評価できる。
27	聴覚検査を実施し、その所見を評価できる。
28	平衡機能検査を実施し、その所見を評価できる。
29	耳管機能検査を実施し、その所見を評価できる。
30	側頭骨およびその周辺の画像(CT、MRI)所見を評価できる。

31	人工内耳の仕組みと言語聴覚訓練を理解する。
32	難聴患者の診断ができる。
33	めまい・平衡障害の診断ができる。
34	顔面神経麻痺の患者の治療と管理ができる。
35	難聴患者の治療・補聴器指導ができる。
36	めまい・平衡障害患者の治療、リハビリテーションができる。
37	鼓室形成術の助手が務められる。
38	アブミ骨手術の助手が務められる。
39	人工内耳手術の助手が務められる。
40	耳科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。
鼻・副鼻腔	
41	鼻・副鼻腔の解剖を理解する。
42	鼻・副鼻腔の機能を理解する。
43	鼻・副鼻腔炎の病態を理解する。
44	アレルギー性鼻炎の病態を理解する。
45	嗅覚障害の病態を理解する。
46	鼻・副鼻腔腫瘍の病態を理解する。
47	細菌・真菌培養、アレルギー検査を実施し、その所見を評価できる。
48	鼻咽腔内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。
49	嗅覚検査を実施し、その所見を評価できる。
50	鼻腔通気度検査を実施し、その所見を評価できる。
51	鼻・副鼻腔の画像(CT、MRI)所見を評価できる。
52	鼻・副鼻腔炎の診断ができる。
53	アレルギー性鼻炎の診断ができる。
54	鼻・副鼻腔腫瘍の診断ができる。
55	顔面外傷の診断ができる。
56	鼻中隔矯正術、下鼻甲介手術が行える。
57	鼻茸切除術・篩骨洞手術・上顎洞手術などの副鼻腔手術が行える。
58	鼻・副鼻腔腫瘍手術の助手が務められる。
59	鼻出血の止血ができる。
60	鼻科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。
61	鼻骨骨折、眼窩壁骨折などの外科治療ができる。
口腔咽喉頭	
62	口腔、咽頭、唾液腺の解剖を理解する。
63	喉頭、気管、食道の解剖を理解する。
64	扁桃の機能について理解する。
65	摂食、咀嚼、嚥下の生理を理解する。
66	呼吸、発声、発語の生理を理解する。
67	味覚障害の病態を理解する。

68	扁桃病巣感染の病態を理解する。
69	睡眠時呼吸障害の病態を理解する。
70	摂食・咀嚼・嚥下障害の病態を理解する。
71	発声・発語障害の病態を理解する。
72	呼吸困難の病態を理解する。
73	味覚検査を実施し、その所見を評価できる。
74	喉頭内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。
75	睡眠時呼吸検査の結果を評価できる。
76	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を実施し、その所見を評価できる。
77	喉頭ストロボスコープ検査、音声機能検査を実施し、その所見を評価できる。
78	口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ができる。
79	咽頭異物の摘出ができる。
80	睡眠時呼吸障害の治療方針が立てられる。
81	嚥下障害に対するリハビリテーションや外科的治療の適応を判断できる。
82	音声障害に対するリハビリテーションや外科的治療の適応を判断できる。
83	喉頭微細手術を行うことができる。
84	緊急気道確保の適応を判断し、対処できる。
85	気管切開術とその術後管理ができる。
頭頸部腫瘍	
86	頭頸部の解剖を理解する。
87	頭頸部の生理を理解する。
88	頭頸部の炎症性および感染性疾患の病態を理解する。
89	頭頸部の先天性疾患の病態を理解する。
90	頭頸部の良性疾患の病態を理解する。
91	頭頸部の悪性腫瘍の病態を理解する。
92	頭頸部の身体所見を評価できる。
93	頭頸部疾患に内視鏡検査を実施し、その結果が評価できる。
94	頭頸部疾患に対する血液検査の適応を理解し、その結果を評価できる。
95	頭頸部疾患に対する画像診断の適応を理解し、その結果を評価できる。
96	頭頸部疾患に病理学的検査を行い、その結果を評価できる。
97	頭頸部悪性腫瘍の TNM 分類を判断できる。
98	頭頸部悪性腫瘍に対する予後予測を含め、適切な治療法の選択ができる。
99	頸部膿瘍の切開排膿ができる。
100	良性の頭頸部腫瘍摘出(リンパ節生検を含む)ができる。
101	早期頭頸部癌に対する手術ができる。
102	進行頭頸部癌に対する手術(頸部郭清術を含む)の助手が務められる。
103	頭頸部癌の術後管理ができる。
104	頭頸部癌に対する放射線治療の適応を判断できる。
105	頭頸部癌に対する化学療法 of 適応を理解し、施行できる。

106	頭頸部癌に対する支持療法の必要性を理解し、施行できる。
107	頭頸部癌治療後の後遺症を理解し対応できる。

⑥ 症例経験基準

- ・ 4年間で経験すべき症例の基準を以下に示す。
- ・ 各年度の研修病院を決定する前に、当該病院で経験可能な症例数に関して指導医に相談すること。

(1) 疾患の管理経験以下の領域の疾患について、外来・入院患者の管理経験を主治医ないし担当医(受け持ち医)として少なくとも記載された症例数を実際に経験し指導医の指導監督を受ける。

難聴・中耳炎	25 例以上
めまい・平衡障害	20 例以上
顔面神経麻痺	5 例以上
アレルギー性鼻炎	10 例以上
副鼻腔炎	10 例以上
外傷、鼻出血	10 例以上
扁桃感染症	10 例以上
嚥下障害	10 例以上
口腔、咽頭腫瘍	10 例以上
喉頭腫瘍	10 例以上
音声・言語障害	10 例以上
呼吸障害	10 例以上
頭頸部良性腫瘍	10 例以上
頭頸部悪性腫瘍	20 例以上
リハビリテーション(難聴、めまい・平衡障害、顔面神経麻痺、音声・言語、嚥下)	10 例以上
緩和医療	5 例以上

(2) 基本的手術手技の経験術者あるいは助手として経験する。(1)の症例との重複は認める。)

耳科手術	20 例以上	鼓室形成術、人工内耳、アブミ骨手術、顔面神経減荷術	
鼻科手術	40 例以上	内視鏡下鼻副鼻腔手術	
口腔咽喉頭手術	40 例以上	扁桃摘出術	15 例以上
		舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術等	5 例以上
		喉頭微細手術	15 例以上
		嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術	5 例以上
頭頸部腫瘍手術	30 例以上	頸部郭清術	10 例以上
		頭頸部腫瘍摘出術(唾液腺、喉頭、頸部腫瘤等)	20 例以上

(3) 個々の手術経験術者として経験する。(1)、(2)との重複は認める。)

扁桃摘出術	術者として 10 例以上
鼓膜チューブ挿入術	術者として 10 例以上
喉頭微細手術	術者として 10 例以上
内視鏡下鼻副鼻腔手術	術者として 20 例以上

気管切開術	術者として 5例以上
良性腫瘍摘出術(リンパ節生検を含む。)	術者として 10例以上

その他：

- ・ 基幹5病院および選択3病院を含む県内の病院での研修内容は実践的臨床訓練であり、希望により単独で、あるいは上級医とともにチーム医療を行うが、訓練効果を上げるために研修指定病院の指導医に指導要請をすることもできる。
- ・ 特殊な診療を行っている診療所での研修もカリキュラムに含めることができる。
- ・ 4年間の研修終了後に行われる日本耳鼻咽喉科専門医試験の受験資格を取得する。
- ・ 研修管理委員会は研修病院から提出された専修医の実績評価に基づく研修内容の調整を行う(研修内容の保証)。

8 目的達成の方法

(1) 研修指定病院での専修医用研修プログラムの実行：

- ① 研修管理委員会の委託を受けた研修指定基幹5病院が中心になって作成した、共通部分と特定部分を持った研修カリキュラムに従って研修を行う。
- ② 各病院を1年間ずつローテーション(配属合計期間48ヶ月)して、基本的耳鼻咽喉科診療と基本的手術手技を習得し、さらに専門的な感覚器医療およびコミュニケーション医療の実践等を明示した専門研修プログラムの下で、専修医自身が自律的研修を行う。

(2) プログラム参加者の定員：

研修の効果を上げるために2015・2016年度は各5人とする。

(3) プログラム参加者の要件：

このプログラムを有効に活用するためには、参加者は2年間の初期臨床研修期間中に、内科的な全身管理(糖尿病、高血圧、高脂血症、循環・呼吸器の病態生理、等)、および麻酔管理や気管内挿管の技術を習得していることが必要である。

9 待遇

- ① 身分：原則常勤(研修病院の都合により非常勤扱いになることもある)、また、地域医療再生計画にのっとった後期研修医となることができる。
- ② 勤務期間：各病院原則1年
- ③ 給与：各病院の給与体系に従う

10 研修終了後の進路と就職相談窓口は研修管理委員会が担当

- ① 4年間の研修期間終了とともにプログラム上の雇用関係は解消される
- ② プログラム終了後の就職先の選定は個人の自由であるが、県内病院に就職を希望する場合の就職相談は研修管理委員会が対応する
- ③ 就職相談窓口では、勤務希望病院での処遇、臨床研究、学位取得や海外留学、などについての相談内容を扱う

11 募集要項

- ・ <http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-450/jinzai/index.htm>
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会HP <http://www.shizuoka-jibika.jp/>
の静岡県耳鼻咽喉科・頭頸部外科後期研修プログラム募集要領からも入れる。

12 ホームページへのリンク先

日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会 <http://www.shizuoka-jibika.jp/>
浜松医科大学医学部附属病院 <http://www.hama-med.ac.jp/hospital/index.asp>
静岡県立総合病院 <http://www.shizuoka-gh.jp>
静岡赤十字病院 <http://www.shizuoka-med.jrc.or.jp>
総合病院聖隷浜松病院 <http://www.seirei.or.jp/hamamatsu/>
静岡県立静岡がんセンター <http://www.scchr.jp>
静岡済生会病院 <http://www.siz.saiseikai.or.jp/hosp/>
沼津市立病院 <http://www2.odn.ne.jp/numazu-hospital/>
聖隷三方原病院 <http://www.seirei.or.jp/mikatahara/index.html>
藤枝市立総合病院 <http://www.hospital.fujieda.shizuoka.jp/>
ふじのくに地域医療支援センター <http://fujinokuni-doctor.jp/>